



第1図版 盛岡市中央卸売市場航空写真(白線は新市場整備範囲, 平成20年(2008)9月30日撮影)

[国土地理院空中写真に加筆]



平成10年(1998)7月14日撮影



昭和51年(1976)9月7日撮影

第2図版 大島遺跡周辺航空写真の変遷(1)(白線は新市場整備範囲)
[国土地理院空中写真に加筆]



昭和37年(1962)10月8日撮影



昭和23年(1948)5月15日撮影(アメリカ軍)

第3図版 大島遺跡周辺航空写真の変遷(2)(白線は新市場整備範囲)
[国土地理院空中写真に加筆]



第1次調査A区全景(東から)



第1次調査B区全景(南西から)



第1次調査C区全景(東から)



第1次調査C区全景(西から)



第2次調査D区南半全景(東から)



第2次調査D区北半全景(東から)

第4図版 大島遺跡第1～4次調査全景(1)



第2次調査C区全景(西から)



第2次調査C区全景(東から)



第2次調査E区全景(南東から)



第2次調査F区全景(南西から)



第2次調査G区全景(西から)



第2次調査G区東端全景(北西から)

第5図版 大島遺跡第1～4次調査全景(2)



第2次調査H区全景(東から)



第2次調査区全景(北東から)



第2次調査K区全景(東から)



第2次調査K区全景(北西から)



第2次調査J区全景(西から)



第2次調査L区全景(北から)

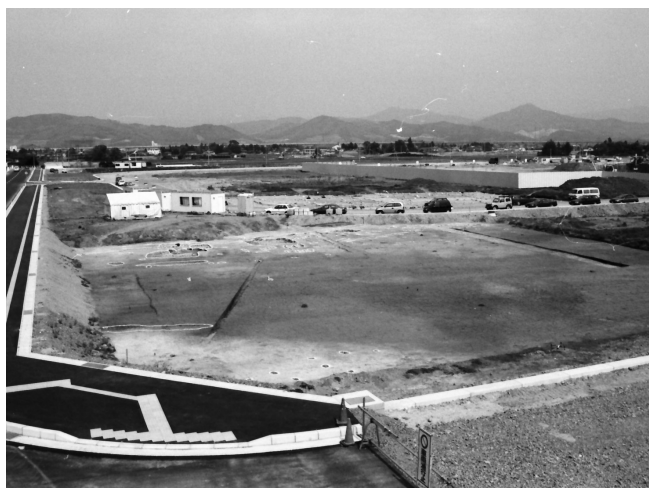
第6図版 大島遺跡第1～4次調査全景(3)



第3次調査全景(西から)



第3次調査全景(南東から)



第4次調査M区全景(北西から)



第4次調査M区全景(南東から)



第4次調査N区全景(北東から)



第4次調査N区東端全景(南から)

第7図版 大島遺跡第1～4次調査全景(4)



第4次調査O区全景(北東から)



第4次調査P区全景(北東から)



第4次調査Q区北半全景(北西から)



第4次調査Q区南半全景(南西から, 地下保存地区)

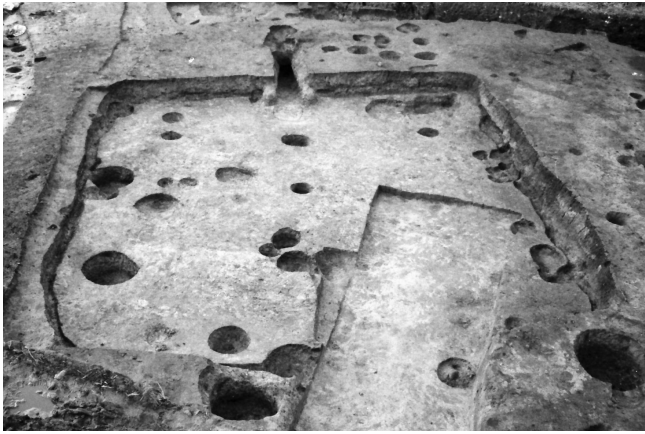


第4次調査R・S区全景(北西から)



第4次調査R・S区全景(北東から)

第8図版 大島遺跡第1～4次調査全景(5)



RA002全景



RA002炭化材出土状況



RA002須恵器長頸瓶出土状況



RA002土師器水鳥胴部状容器出土状況



RA004石帯具(鉈尾)出土状況



RA014全景



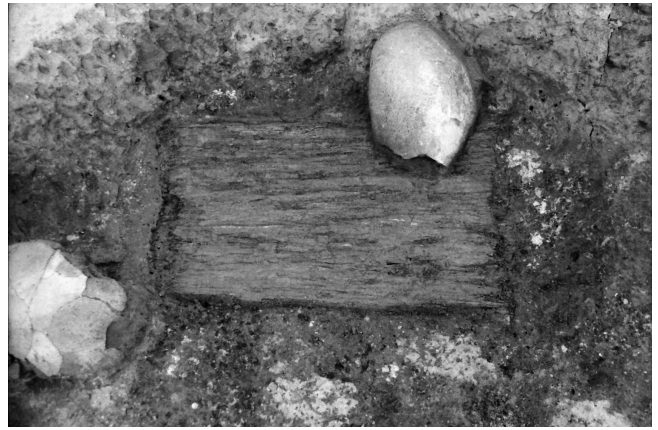
RA015全景



調査風景



RA068カマド付近



RA068板材出土状況



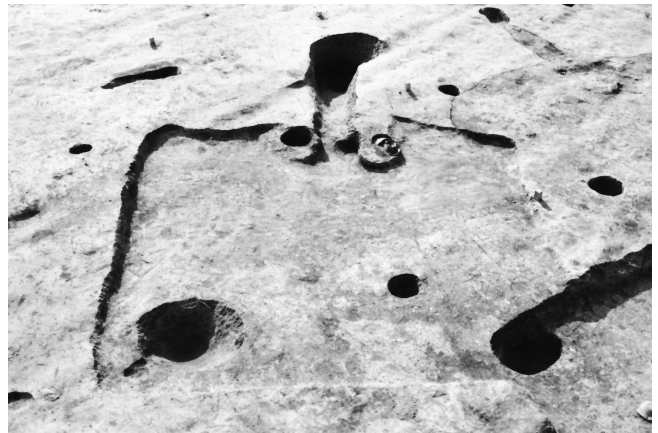
RA072全景



RA074全景



RA078全景



RA079全景



RA080全景



RA081a全景



RA083全景(左)・カマド付近(右)



RA084全景



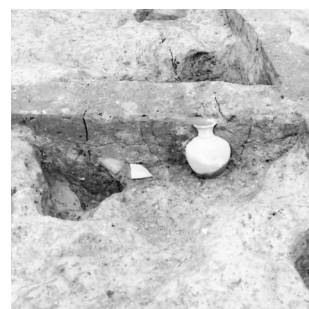
RA088全景



RA095全景(左)・カマド付近(右)



RA098全景(左)・カマド付近(右)



RA098周溝板材出土状況・主柱穴木材出土状況・須恵器長頸瓶出土状況



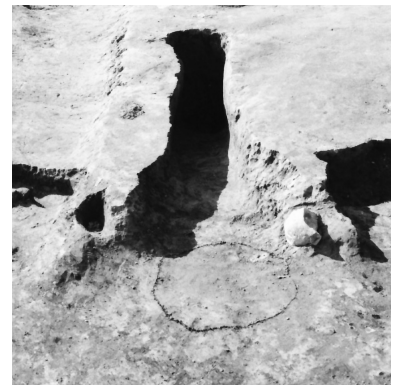
RA152全景



RA152炭化材出土状況・主柱穴木材出土状況



RA151全景(左)・カマド付近(右)



RA161全景(左)・カマド付近(右)



RA166全景



RA171全景



RA172全景(左)・カマド付近(右)

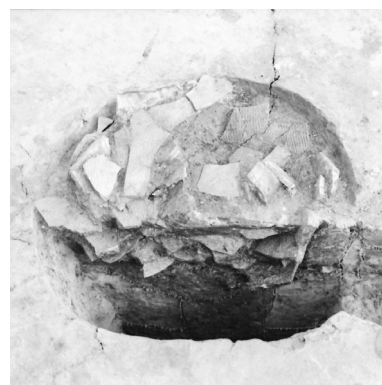
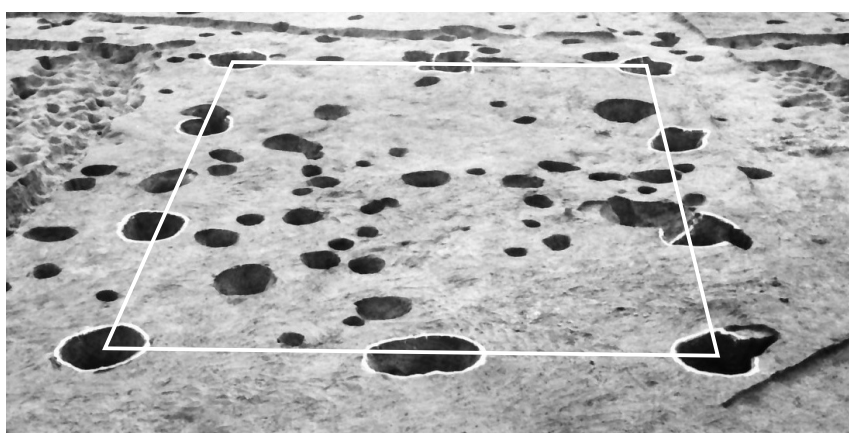




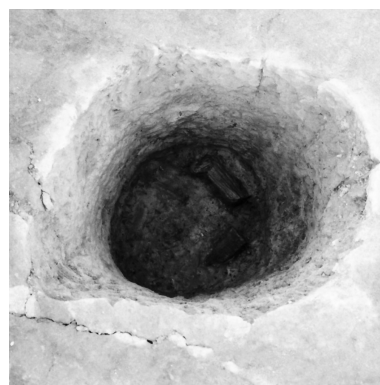
RA173a全景(左)・カマド付近(右)



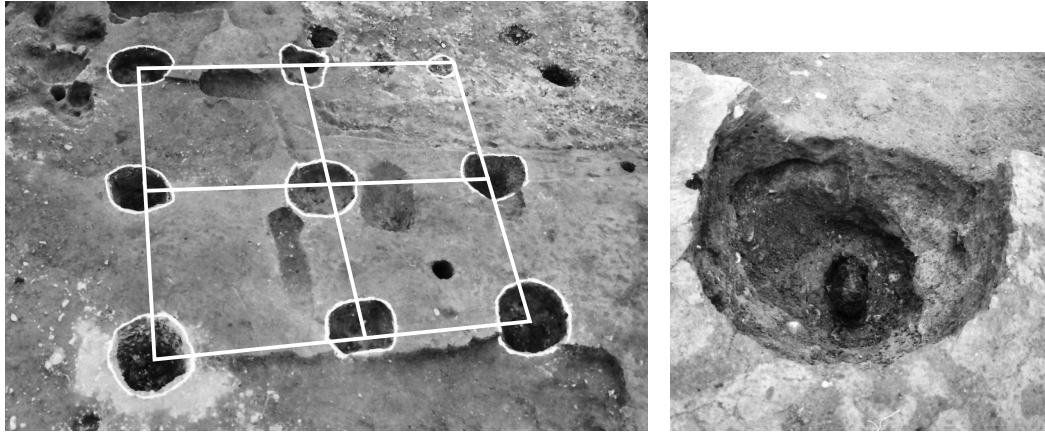
RA173c全景(左)・カマド付近(右)



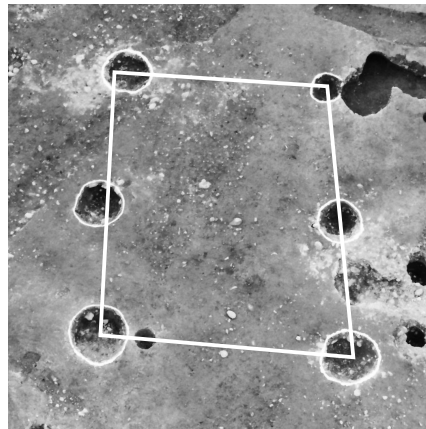
RB070全景(左)・掘方須恵器大甕廃棄状況(右)



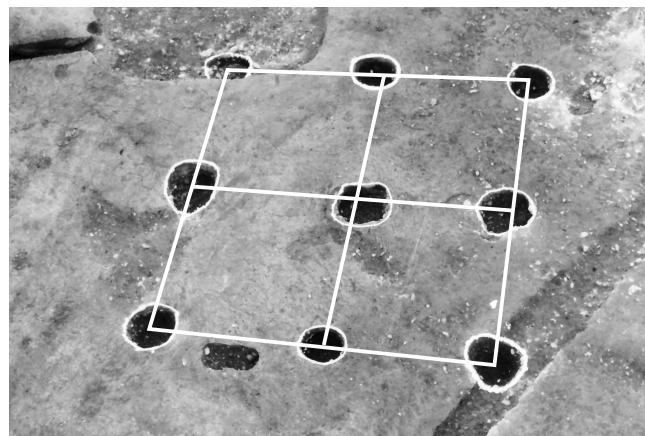
RB070掘方底面木材出土状況



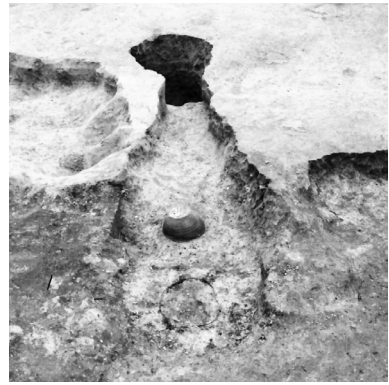
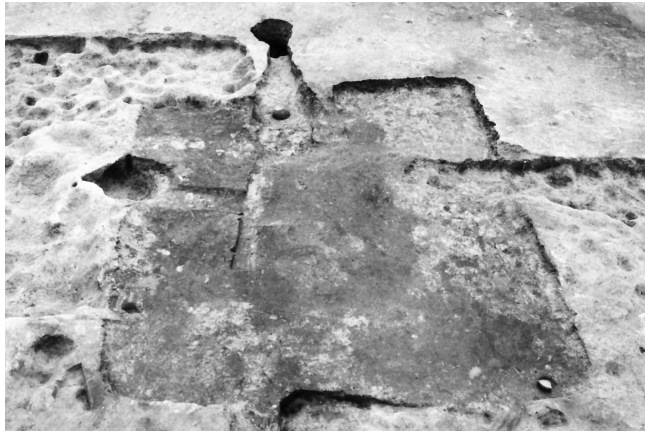
RB171全景(左)・掘方底面木材出土状況(右)



RB172全景



RB173全景



RA203a全景(左)・カマド付近(右)



RA205全景(左)・炭化材出土状況(右)



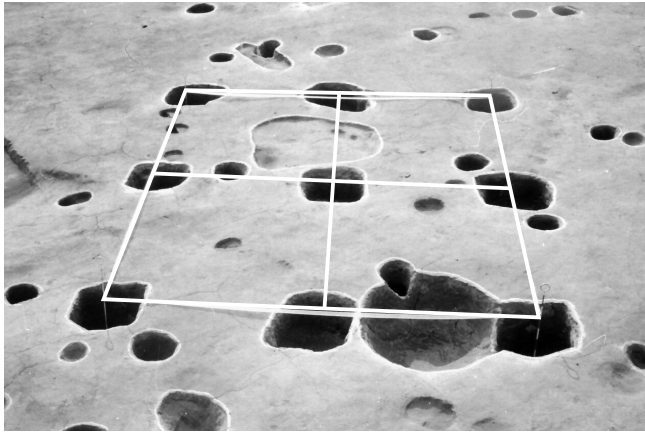
RA204全景



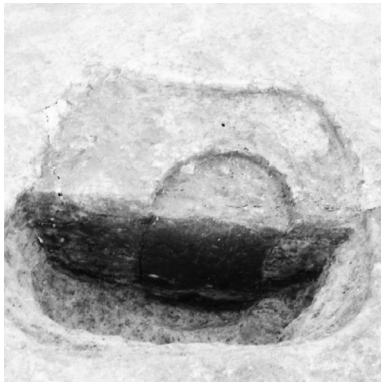
RA221全景



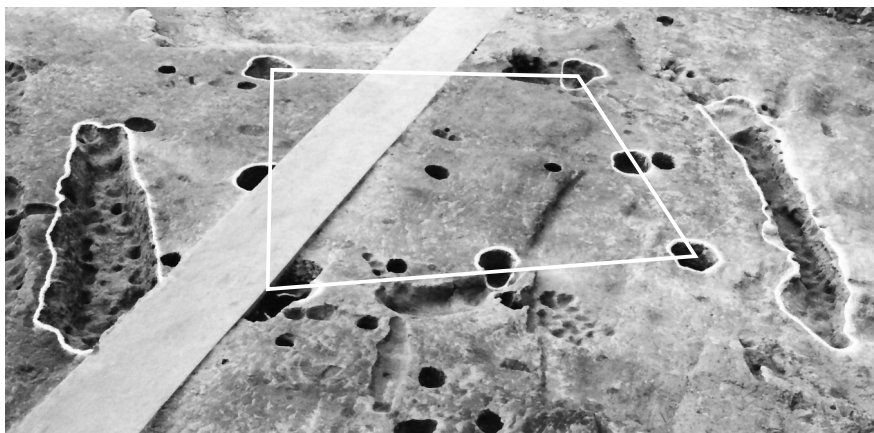
RA253全景(左)・カマド付近(右)



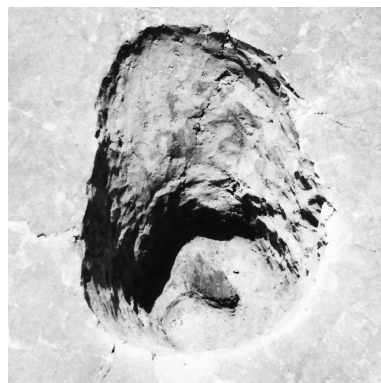
RB051全景(左)・掘方(右, 柱拔取)



RB051掘方(柱痕跡)



RB232全景



RB231掘方底面木材出土状況



RG224・225全景(木材集中)



木材集中検出状況(左)・木製鋤出土状況(右)



RX201全景

石帯具(丸柄)
601 R区検出面(黒色粘板岩製)
602 E区表土(黒色粘板岩製)
603 C区表土(白色メノウ製)



701 木製鋤-RA152主柱穴底面



702 木製鋤-RA152主柱穴底面





703 木製皿-出土位置不明



704 柱材-RA002主柱穴



705 柱材-RA152主柱穴



706 柱材-RA152主柱穴



707 板材-RA098周溝



708 板材-RA098周溝



709 柱材-RB070掘方底面



710 柱材-RB070掘方底面



RA068出土土器(9世紀中葉)



RA098出土土器(9世紀中葉)



RA173出土土器(9世紀後葉)



417 須恵器大甕-RB070

第22図版 大島遺跡出土資料(4)



046 須恵器坏-RA068



047 須恵器坏-RA068



085 須恵器坏-RA078



086 須恵器坏-RA078



087 須恵器坏-RA078



091 須恵器坏-RA078



235 須恵器坏-RA098



238 須恵器坏-RA098



239 須恵器坏-RA098



279 須恵器坏-RA152a



001 須恵器長頸瓶-RA002



301 土師器坏(非ロク口)-RA161



319 土師器坏(非ロク口)-RA171



320 土師器坏(非ロク口)-RA171



321 土師器坏(非ロク口)-RA171



325 土師器坏(非ロク口)-RA171



042 土師器坏-RA063



043 土師器坏-RA063



048 土師器坏-RA068



115 土師器坏-RA082



130 土師器坏-RA084



171 土師器坏-RA090



173 土師器坏-RA090



222 土師器坏-RA095



269 土師器坏-RA104



314 土師器坏-RA168



339 土師器坏-RA173



224 土師器高台付坏-RA095



457 土師器甕-RD171



057 土師器甕-RA068



080 土師器甕-RA079



250 土師器甕-RA098



335 土師器甕-RA172



370 土師器甕-RA173



160 土師器小型甕-RA089



305 土師器小型鉢-RA161



254 土師器小型鉢-RA098



255 土師器小型鉢-RA098



041 あかやき土器杯-RA066



050 あかやき土器杯-RA068



052 あかやき土器杯-RA068



072 あかやき土器杯-RA070



095 あかやき土器杯-RA080



097 あかやき土器杯-RA081



098 あかやき土器杯-RA081



109 あかやき土器杯-RA083



120 あかやき土器杯-RA082



133 あかやき土器杯-RA084



139 あかやき土器杯-RA084



148 あかやき土器杯-RA088



182 あかやき土器杯-RA090



183 あかやき土器杯-RA090



284 あかやき土器杯-RA152



296 あかやき土器杯-RA152'



299 あかやき土器杯-RA152''



308 あかやき土器杯-RA162



310 あかやき土器杯-RA165



349 あかやき土器杯-RA173



350 あかやき土器杯-RA173



351 あかやき土器杯-RA173



352 あかやき土器杯-RA173



353 あかやき土器杯-RA173



355 あかやき土器杯-RA173



356 あかやき土器杯-RA173



470 あかやき土器杯-RG156



071 あかやき土器小型杯-RA070



116 あかやき土器小型杯-RA082



117 あかやき土器小型杯-RA082



040 あかやき土器高台付杯-RA062



184 あかやき土器高台付杯-RA090



093 あかやき土器甕-RA078



101 あかやき土器甕-RA081



209 あかやき土器甕-RA092



371 あかやき土器甕-RA173



094 あかやき土器羽釜-RA078



142 あかやき土器羽釜-RA084



墨書土器「万」(442-RD092)



土師器坏内面付着繊維-RA211b床面

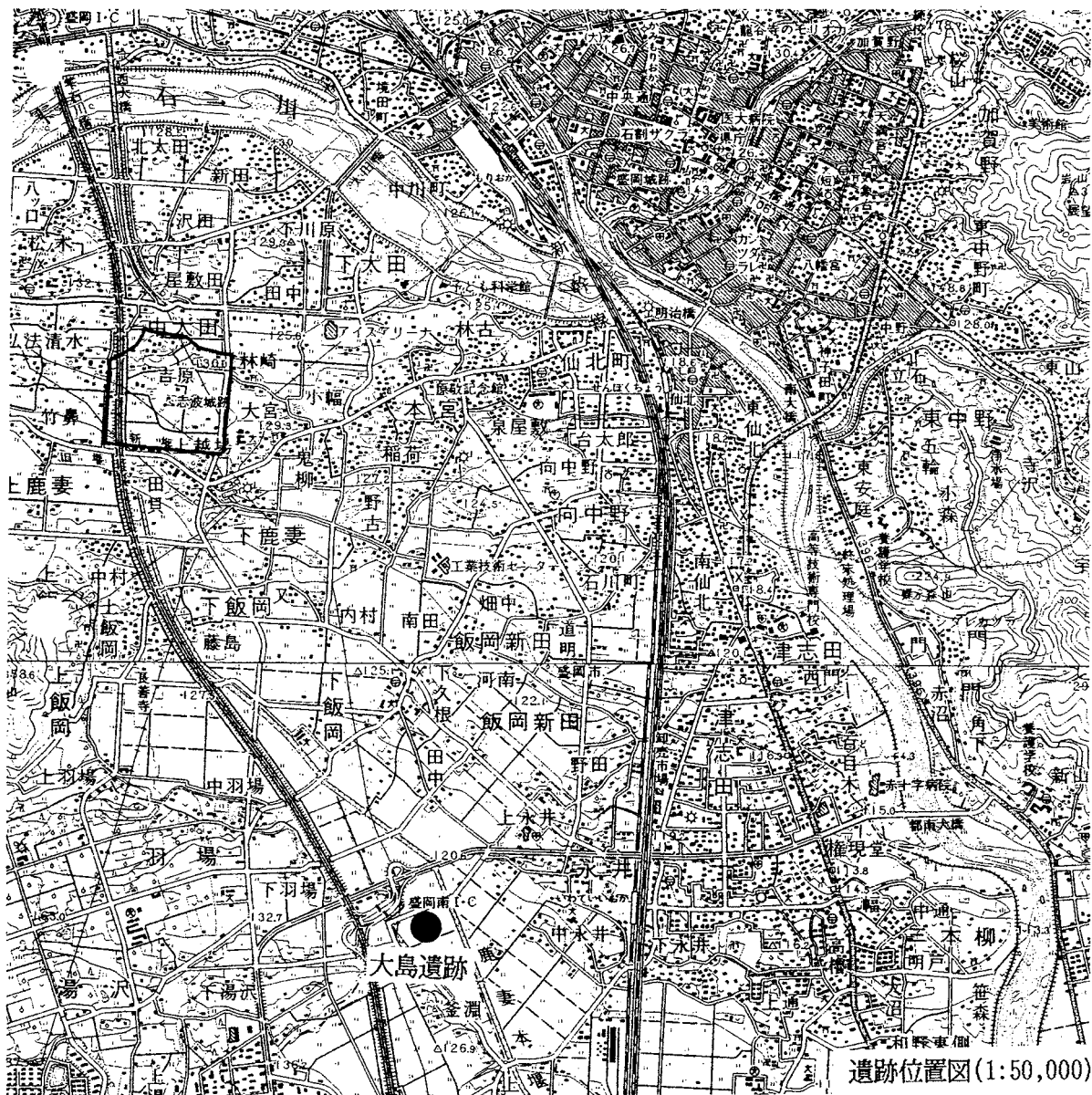


漆製品破片-出土位置不明

第28図版 大島遺跡出土資料(10)

大島遺跡

第1 - 2次発掘調査現地説明会資料



平成10年7月25日(土)
盛岡市教育委員会

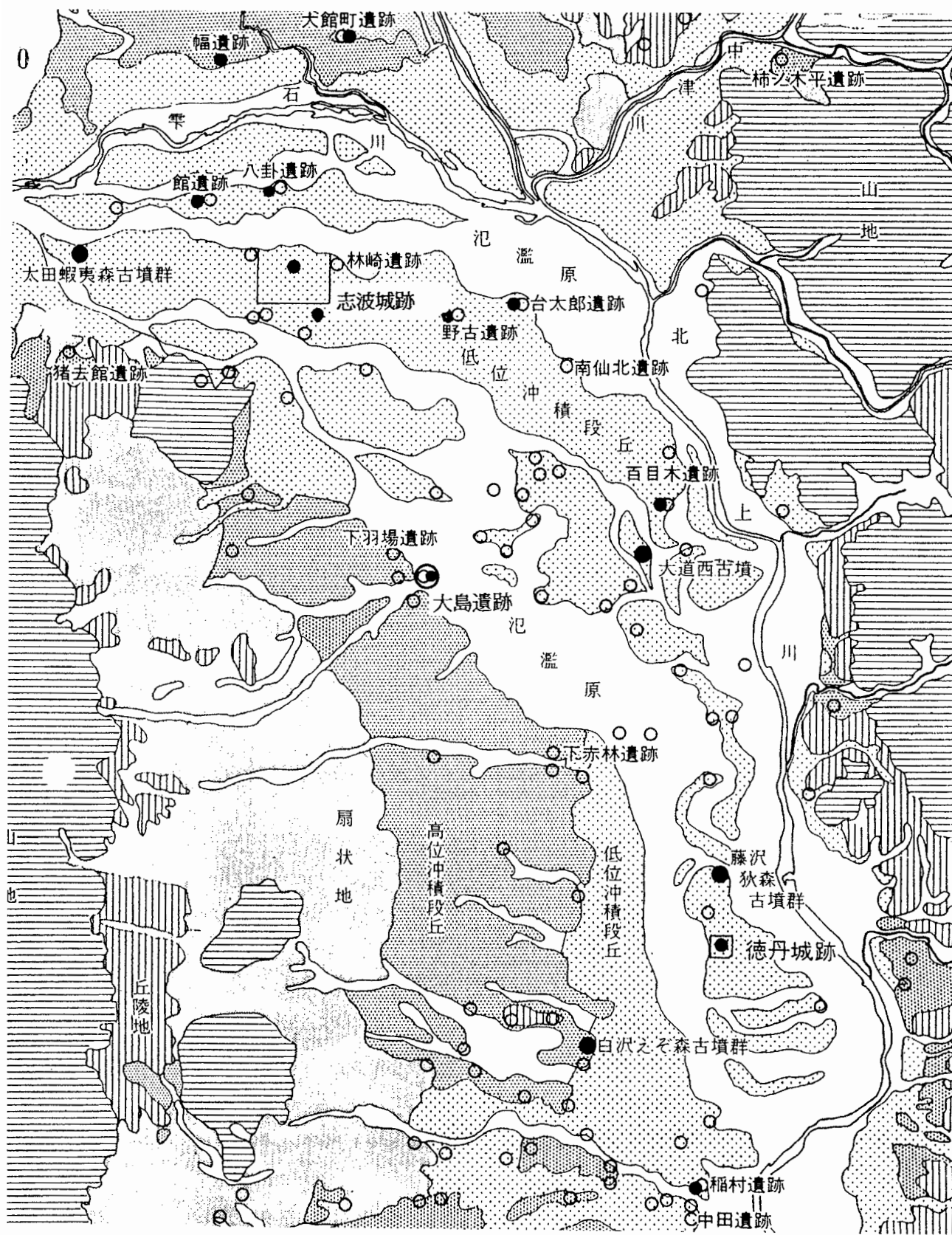
1. 遺跡の概要

大島遺跡(おしまいせき)は、盛岡市の中心部から南南西へ約6kmの盛岡市羽場10地割に所在し、西に東北自動車道盛岡南インターチェンジが隣接、東は鹿妻本堰が南北に流れています(第2図)。遺跡は、雫石川が最も南流した時の氾濫原に立地し、西方の高位沖積段丘との比高差は約10mあります。

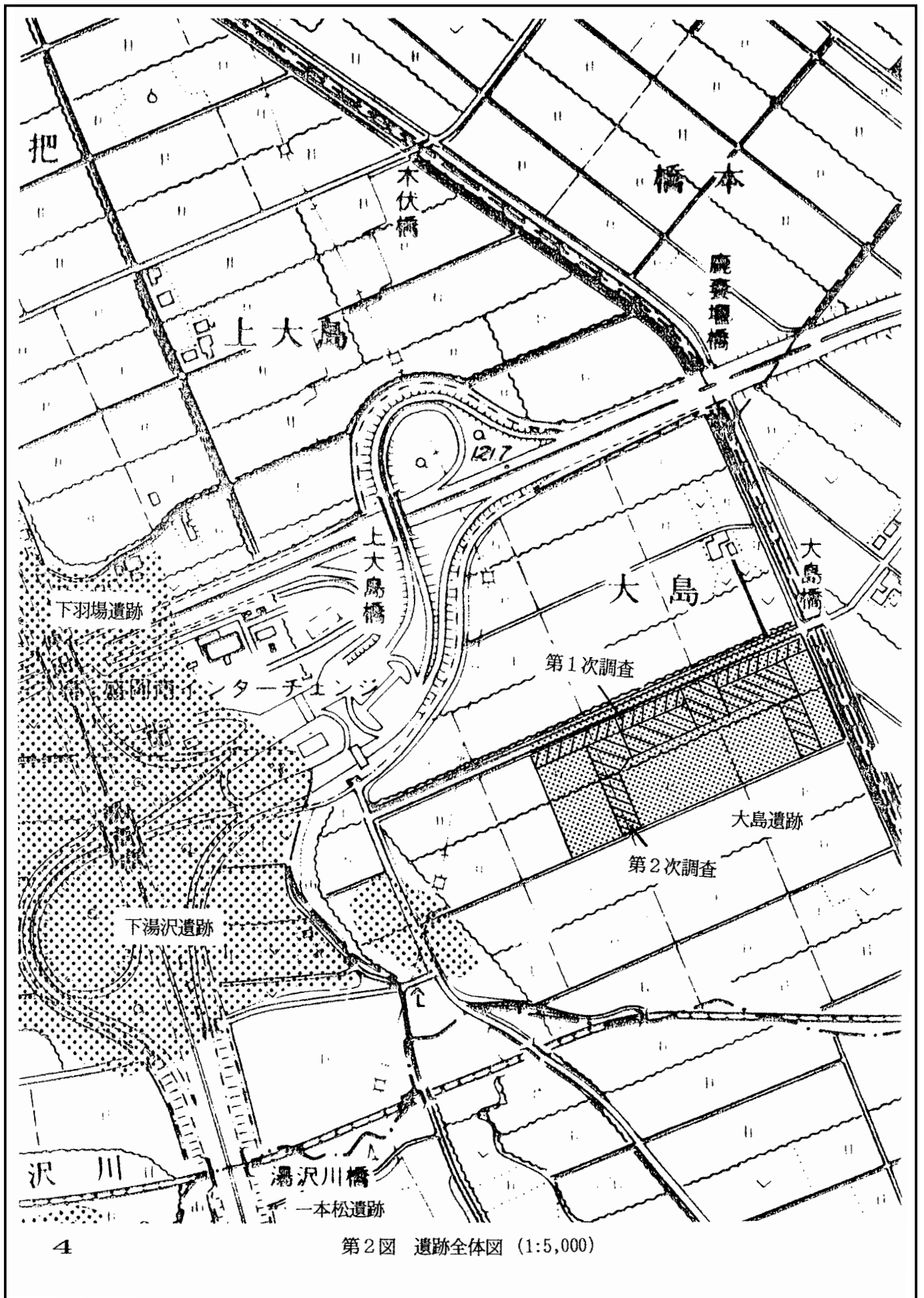
大島遺跡は、盛岡市の新中央卸売市場建設に伴って平成8年度に試掘調査を行ったところ、約30,000㎡の範囲にわたる古代の集落跡であることが確認され、平成9年度～11年度の前で本調査を行っています。平成9年度の第1次調査では、県内でも出土例が少ない石帯具(せたいぐ)が出土し、新聞報道されました(岩手日報 H9.11.12)。

2. 周辺の遺跡

大島遺跡周辺の遺跡分布を見ると、西方の湯沢地区に縄文時代中期(約4,500年前)の集落である湯沢遺跡があるほかは、多くが奈良・平安時代(約1,200～1,000年前)の遺跡です(第1図)。大島遺跡の北西約4kmには9世紀初頭(803年)に坂上田村磨呂によって造営された「志波城」跡があり、その東方には林崎遺跡、小幅遺跡、野古遺跡、本宮熊堂遺跡、台太郎遺跡といった奈良・平安時代の大きな集落跡が見られます。また、遺跡東方の北上川沿いには百目木遺跡、西鹿渡遺跡があり、特に百目木遺跡は現在のサティ建設に伴う発掘調査で約80棟の奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出されました。また、遺跡西方に隣接する東北自動車道建設に伴って下羽場遺跡、下湯沢(湯沢(A)・(B)・稻荷)遺跡、一本松遺跡が発掘調査され、平安時代の竪穴住居跡約40棟、掘立柱建物跡、円形周溝跡などが検出されています。



第1図 地形と遺跡分布 (●奈良時代 ○平安時代)



第2図 遺跡全体図 (1:5,000)

3. 調査の概要

(1) 調査面積

平成9年度（第1次調査）	－ A・B・C区	合計約3,500㎡
平成10年度（第2次調査）	－ E・F・G区	計約4,500㎡
	その他	計約4,500㎡ 合計約9,000㎡

(2) 検出された遺構・遺物（H10.7.20現在）

・遺構(いこう)

奈良時代	－ 竪穴住居跡	2棟
平安時代	－ 竪穴住居跡	73棟
	掘立柱建物跡	5棟
	土坑	97基
	溝跡	27条
	円形周溝跡	1基
	遺物包含層	3ヶ所
江戸時代	－ 掘立柱建物跡	14棟
	柱列跡	7列
	墓跡	2基

・遺物(いぶつ)

奈良・平安時代 － 土師器(はじぎ)・須恵器(すえぎ)・あかやき土器など 約40箱
 墨書(ぼくしよ)土器、緑釉(りよくゆう)陶器、石帯具(いすび)・
 丸鞆(まるとも)・碁石、土錘、土玉、棒状土製品、
 コハク原石、黒曜石、フィゴ羽口、鉄滓など

江戸時代 － 寛永通宝 15枚

4. 遺構と遺物の概要

(1) 奈良・平安時代

・遺構

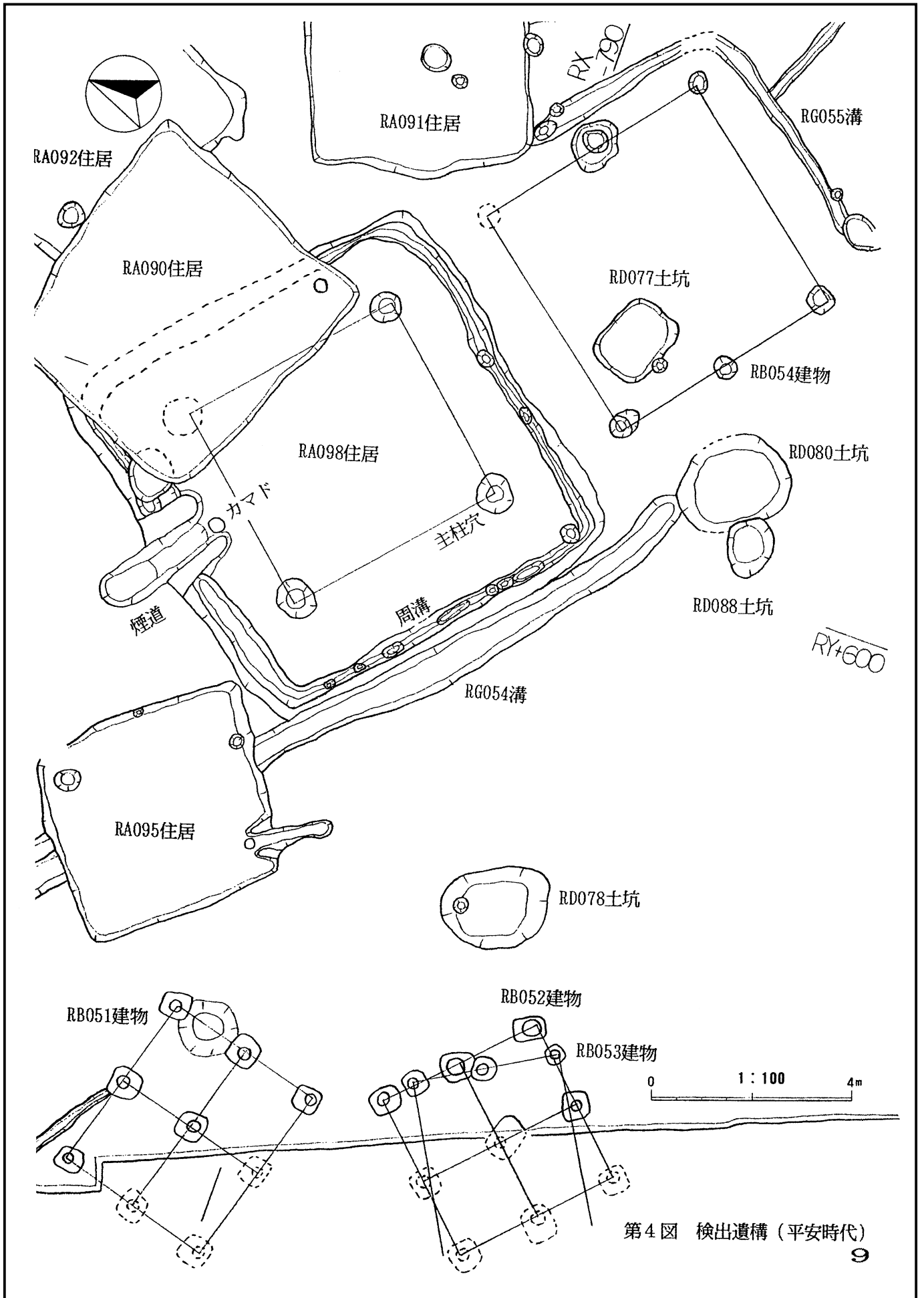
これまでの調査で、奈良・平安時代の集落は、遺跡内を南北に走るいくつかの沢状低地に挟まれた微高地上に集中していることがわかりましたが、検出面は後世の開田でかなり削平されており、遺構の残存状況は良くありませんでした（第3図）。

志波城造営以前である奈良時代の遺構は、現在のところ東側A区と西側E区で竪穴住居跡が2棟（RA002, RA072）検出されていますが、集落の広がりは今後の調査で明らかになると期待されます。東側A区検出のRA002住居跡は一辺約6mと比較的大形であり、北西カマドで支柱穴・周溝・貯蔵穴を持ち、出土土器から8世紀中頃の年代が考えられます。

志波城造営以後の平安時代の遺構は、竪穴住居跡73棟、掘立柱建物跡5棟などが検出されています。

竪穴住居跡の平面形は方形で、煮炊きの場であるカマドとトンネル状の長い煙道を持っています。住居跡の主軸方向を検討すると、北東-南西または北西-南東方向を主軸とするものと、東-西または南-北方向を主軸とするものがそれぞれ約1：2の比率で存在するようです。住居跡の規模を比較すると、一辺が5m以上の大形住居跡が約10%、4～5mの中形住居跡が約40%、4m以下の小形住居跡が約50%存在します。特に西側E区南で検出されたRA098住居跡は一辺約8mと集落内最大で、4本の支柱穴と周溝内には木材の一部が残存していました（第4図）。また、その北にあるRA084住居跡は一辺6mで焼土・炭化物が多く分布し、鉄滓やフィゴ羽口が出土していることから鉄器工房的役割を持つ住居の可能性が考えられます。カマドについては、同一住居で1回または2回作り替えをしているものもあり、カマド方向を検討すると、東または南東カマドが約50%、北または北東カマドが約25%となっています。出土した土器を概観すると、住居跡の年代は9世紀後半を中心としています。一部は10世紀中頃と考えられるものもあります。個々の住居跡の年代については今後の詳細な検討が必要ですが、志波城・徳丹城廃絶後に営まれ約100年間継続した集落と考えられます。

また掘立柱建物跡は（第4図）、E区南西端に一辺50～60cmの方形の掘方をもつ2間×2間の総柱の掘立柱建物跡が2棟（RB051、052）検出されており、高床の倉庫と考えられます。また、大形住居跡のRA098の南東に隣接するRB054建物跡は、周溝状の溝が一部にめ



ぐり、RA098住居跡の支柱穴とほぼ柱筋が揃うことから、これらが組み合う一連の建物である可能性も考えられます。

・遺物

(a) 土器類 (第5図1～9)

住居跡等からは、当時の生活用具であった土師器・須恵器・あかやき土器の破片が多量に出土しています。特に住居跡のカマド付近や煙道、貯蔵穴から土器がまとまって検出されました。概観すると須恵器の出土比率が比較的高いようです。奈良時代のRA002住居跡からは須恵器の長頸瓶(ちようけいびん)や須恵器の平瓶(ひらびん)を模したような珍しい器形の土師器が出土しています。また、平安時代のRA098住居跡からも須恵器の長頸瓶が、RA014住居跡からは須恵器の坏(つぎ)に「川」と書かれた墨書土器が出土しています。

(b) 緑釉陶器 (第5図10)

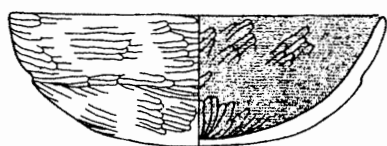
緑釉陶器は施釉陶器の一種で主に平安時代初頭から東海・近畿地方で多く生産されたものです。東北地方でも出土する遺跡はありますが、そのほとんどは国府多賀城跡とその周辺、鎮守府胆沢城跡に集中し、一般集落からの出土は稀です。西側F区の表土などから同一個体の破片2点が出土しました。器形は皿で、9世紀前半の黒笹14号窯式(K14)に相当する県内出土の中でも古いものです。

(c) 石帯具 (第6図1～3)

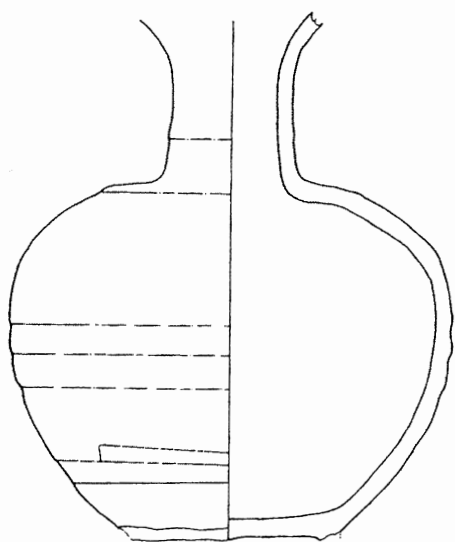
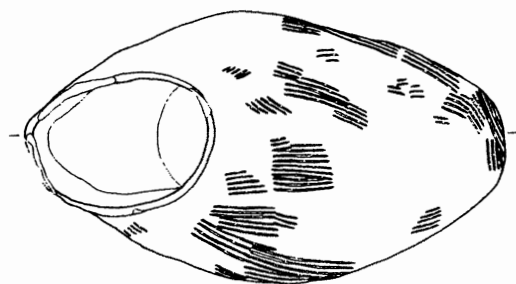
石帯具は、朝廷の官人が位階に応じて着用した革帯の装飾で、東北地方からは30点ほど出土しています。城柵遺跡や墳墓からも出土していますが、集落遺跡からの出土例も多くあります。県内では胆沢城跡から1点出土している他はその周辺や県北の集落遺跡から計6点の出土例があります。東側A区のRA004住居跡の床面から鉈尾1点、西側C・E区表土から丸鞆2点の計3点が出土しました。石材は鉈尾と丸鞆1点が黒色の粘板岩製(現在の硯と同じ石材)、もう1点の丸鞆が緑色のメノウ製です。鉈尾は県内初の出土であり、幅が4.5cm(=革帯の幅)と大形の規格のものです。

(d) コハク

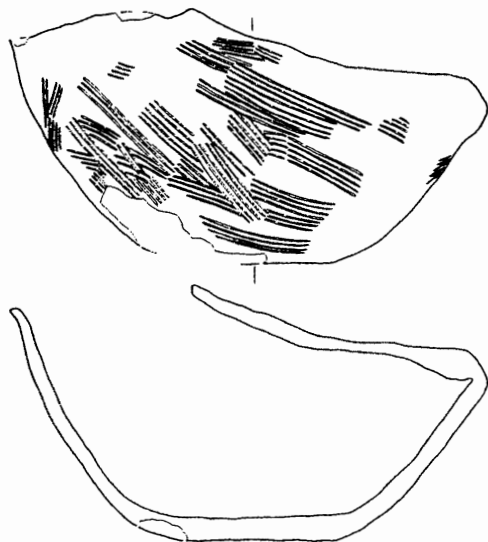
西側E区の3棟の住居跡からコハク原石が出土し、久慈産と考えられます。非常にもろく、カマド付近の床面構築土や崩壊土から出土しました。



1 土師器 坏 (RA002)

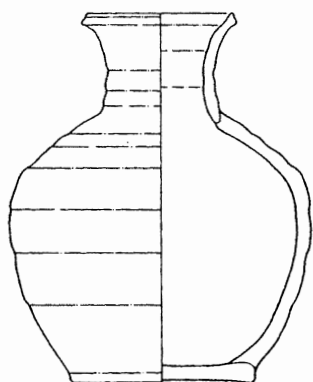


(奈良時代) 2 須恵器 長頸瓶 (RA002)

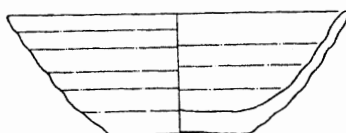


3 土師器 平瓶模倣? (RA002)

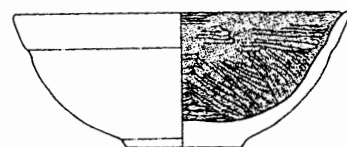
(平安時代)



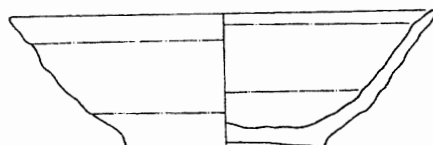
4 須恵器 長頸瓶 (RA098)



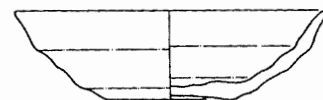
5 須恵器 坏 (RA098)



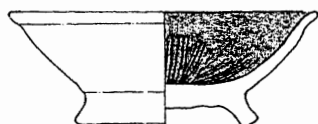
6 土師器 坏 (RA098)



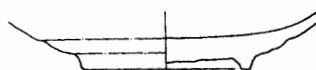
7 あかやき土器 坏 (RA090)



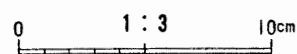
8 あかやき土器 坏 (RA090)



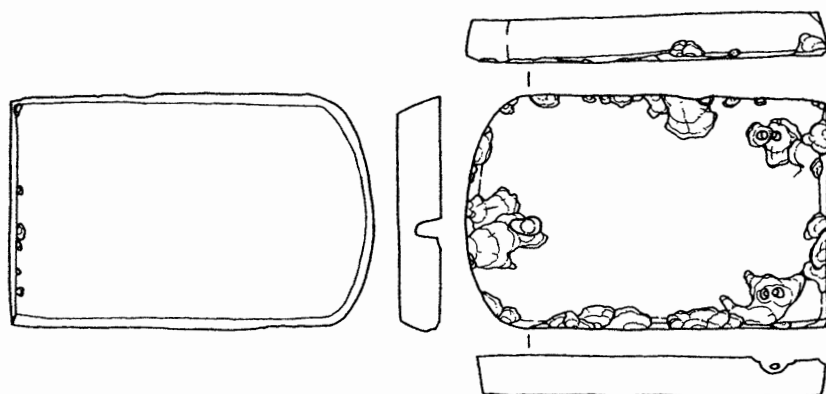
9 土師器 高台付坏 (RA083)



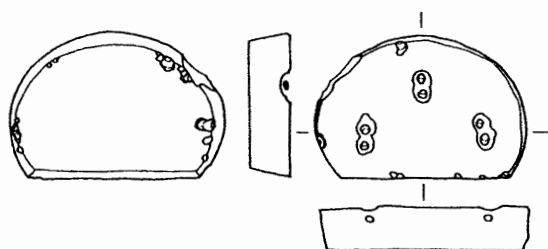
10 緑釉陶器 皿 (F区表土)



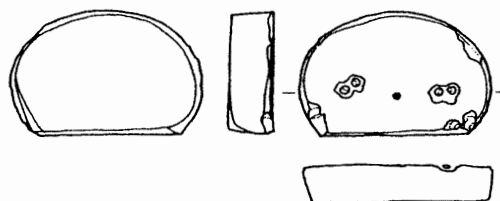
第5図 出土遺物



1 鉈尾(粘板岩製、RA004床面)

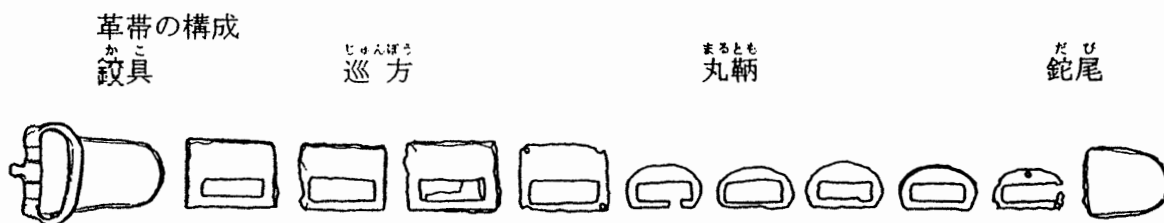


2 丸鞆(粘板岩製、E区表土)



3 丸鞆(メノウ製、C区表土)

第6図 出土遺物(石帯具)



*長さは1.5～2.1mと、現在のベルトよりかなり長い



束帯
抱石帯を挿す前後

(2) 江戸時代

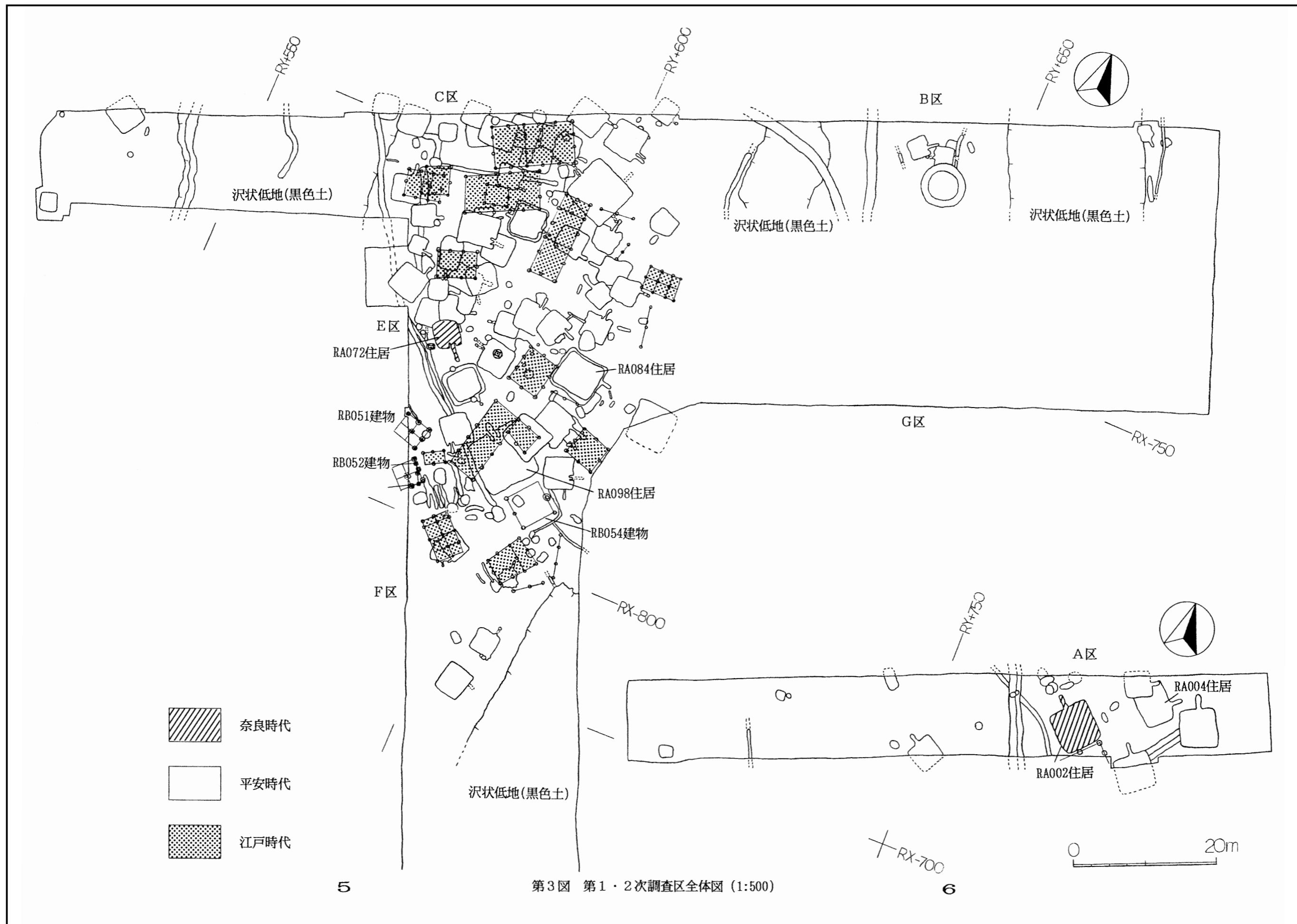
西側C・E・F区において、掘立柱建物跡14棟、柱列跡7列、墓跡2基が検出されました。

掘立柱建物跡は、主軸方向の違うものがあるといくつかあり、変遷が考えられます。桁行が11～12mの大形建物や総柱の建物が存在すると考えられますが、その構造や規模はさらに検討が必要です。

墓跡は、いずれも土葬で、一基は円形の木製棺、もう一基は長方形の木製棺で、ともに3枚の寛永通宝のみが副葬されていました。

5. まとめ

- ① 大島遺跡の第1・2次調査において、奈良・平安時代の集落と江戸時代の集落が確認されました。
- ② 奈良時代の集落は、竪穴住居跡が1棟確認されており、今後の調査によってその構成が明らかになると考えられます。
- ③ 平安時代の集落は、沢状の低地に挟まれた帯状の微高地上に、多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡が密集して営まれており、9世紀後半を中心に10世紀中頃まで約100年間続いた大きな集落と考えられます。
- ④ 出土した石帯具や緑釉陶器は、県内でも出土例が少なく、一般集落からの出土が珍しい遺物です。平安時代の集落が存続した9世紀後半以降は、志波城・徳丹城が廃絶され、胆沢城が北上盆地の広域統治を行い、各地に群単位の在地有力者が登場して新しい政治秩序ができた時代と考えられます。石帯具などは、その政治的な結びつきの中で、胆沢城→在地有力者→”大島村”村長という経路で下賜された象徴的品物と考えられます。
- ⑤ 江戸時代の集落は、多くの掘立柱建物跡や墓跡が確認されました。



第3図 第1・2次調査区全体図 (1:500)